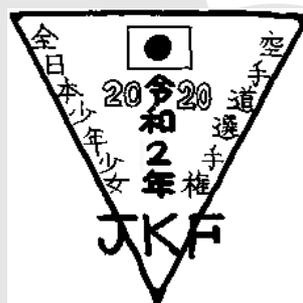


「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第72回



ヒドウン・カリキュラム (8) 道場あるある

ヒドウン・カリキュラムの総括として、その他のよくある事例を“道場あるある”としてまとめていきます。

★指導中に口を挟む

若手の先生に全体指導を任せてみた。しかしながら、先輩として口を挟みたくなくなった。若先生の指導を途中で止め、子ども達が見ている前で若先生に注意した。

▶指導者「このまま続くとマズイ！早く話を中断させて、若先生に知らせなくては！」

▷子ども1「あの若い先生、怒られてる。まだ若いから教え方が下手なんだなあ。あまり信用しないことにしよう」

▷子ども2「先生同士で仲が悪いのかな？」

※未熟な先生に全体指導を任せた自分の責任です。どうしても言いたいことがあったら、途中で口を挟むのではなく、指導の切れ間に子どもたちの見えないところでアドバイスするようにしましょう。

★足を崩して座る

座って見取り稽古をする時は正座をするというルールになっているのに、足を伸ばしている子どもがいる。

▶指導者「あれ、昨日注意したのに、また勝手に足

を崩している子がいるなあ。でも今は指導に忙しいから、ひとまず、あとで注意しよう」

▷子ども1「昨日は怒ったのに、今日は何も言わないんだ。昨日の説教はいったい何だったんだろう」

▷子ども2「なぜ、先生は足を伸ばしている子を注意しないんだろう。真面目に正座するのが馬鹿馬鹿しくなってきた」

★あとで答える

指導者が説明しているときに、ある子どもが遮って質問してきた。今、この質問に答えていると、ペースが乱れてしまう。「その質問には、あとで答えます」とその場では言ったが、そのまま忘れて稽古を終えてしまった。

▶指導者「そういえば、『あとで』と言っておいて、質問に答えるのを忘れていたなあ。まっ、いいか」

▷子ども「ずっと、待っていたのに。先生は僕のことを軽く見ているんだ。僕のことなんてどうでもいいんだ」

※「あとで」と言ったら責任を持って、「あとで」答える時間を作りましょう。「あとで」答えるつもりがないのなら、その場で「ゴメン、今は質問には答えられません」ときっぱり断る方がまだよいでしょう。そして、もし覚えていたら、「さっきの質問何だった？」と聞けばよいのです。

★自ら靴並べ

外で見学している保護者に話があったので、指導者がいったん外に出た。すぐに道場に戻ってきたが、指導者はそのまま下駄箱を素通りして道場に入った。

▶指導者「中で子どもたちが待っている、危ない遊びをしていないかな？ 急がないと！」

▷子ども1「あっ、今、先生は靴並べしなかった。いつもはやらないと怒るくせに」

▷子ども2「靴並べは大人になったらやらなくていいんだ。僕も早く大人になりたいな」

※中にいる子どもたちの様子も心配ですし、急いでいるときは、靴並べをする時間の余裕なんてありません。しかしながら、低学年の子どもたちには、そのような理屈は通らないのです。

★勝手にしゃべりだす

子供が発言している途中で、指導者が言いたいことがあったので、割り込んで話を遮った。

▶指導者「ちょっと待った、待った！ それ違うよ」

▷子ども1「人の話は最後まで聞かなくていいんだ！しゃべりたいときに、自由にしゃべっていいんだ」

▷子ども2「僕が割り込んだときは怒ったくせに。自分だって同じことやってるじゃないか」

※指導者がまず、「最後まで聞く」という姿を見せることが大切です。勝手にしゃべりだした子は指導

者が止めて構いませんが、発言の機会を与えられた子が話をしているときには、指導者は根気よく最後まで聞くようにします。そうすれば、子どもたちも指導者の話を最後まで聞くようになります。

以上、ヒドゥン・カリキュラムをいろいろな例をあげて紹介してきました。共通する対策としては、まず指導者がルールを明確に宣言します。そして、そのルールを破った子がいたときは、すべての稽古を止めてでも、みんなでルールの再確認をすることが大切です。

しかしながら実際の指導の現場では、指導者自身が基準をコロコロ変えたり、ブレたり、ルールを破ったりする場面が少なからず見受けられます。それが本意でなくても、子どもたちには、間違ったメッセージとして伝わってしまうのです。

実は、ヒドゥン・カリキュラムには「正」と「負」があります。今まで紹介してきたものは、すべて負のヒドゥン・カリキュラムです。今回は、正のヒドゥン・カリキュラムについてご紹介します。

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



どうやって道場生 350名に増やしたか？ その 22

■チラシは男女で見え方が違う

以下のAとB、どちらが生徒募集に適しているでしょうか？

A 「カラフルで、写真や絵が多いチラシ」

B 「白黒文字で、データや数値を使って理論的に説明しているチラシ」

網膜には、M細胞とP細胞と言う2種類の細胞があり、男性の目にはM細胞が多く、女性にはP細胞が多く存在することが分かっています。M細胞は光や動きに反応するので男性は色というより白黒の世界での陰影やすばやい動きをとらえやすく、P細胞は色に反応するので女性はカラフルなものを好みます。

さて、さきほどの質問に対する答えですが、Aは女性に、Bは男性に適したチラシだといえます。子どもに来てほしい道場はA(チラシを見るのはお母さんだから)、一般男性に来てほしい道場はBにすればよいことが分かります。

M細胞は影やスピードなどに反応しますので、かえって色は邪魔です。さらに、データや数字といった理論的な根拠・証拠を好む男性脳には、Bチラシが強く訴えかけることとなります。一方、女性はカラフルで写真を多用した、感情に訴える言葉や表現を使ったものに目が行くようになっていますので、Aチラシが適しているのです。どちらが優れているという訳ではなく、ターゲットに合わせたデザイン作りが大事なのですね。